

歴史資源の活用と文化の振興 歴史と文化が息づくまちづくり

本市には、縄文時代から近代までの歴史遺産や地域ごとに受け継がれている伝統行事など多くの有形・無形の文化財が残っており、先人達が築き上げてきたこれら市固有の歴史資源を保存・活用したまちの創造に努めています。シリーズ市政の「今」。第23回は、歴史資源の活用と文化振興によるまちづくりの取り組みについてお知らせします。

次世代へ文化の継承

私たちの住む舞鶴市は、海や山といった自然の恩恵を受けて先人達が築き上げてきました。その生活の痕跡は、私たちの周りにある建造物や美術工芸品、そして祭礼芸能や天然記念物といった多種多様な文化財として継承され今に残ります。この私たちのまちの風土から生まれ、脈々と育まれてきた貴重な文化遺産を親から子へ、そして孫へと受け継いでいくことが今に生きる私たちの使命です。



▲松尾寺の仏舞
(国指定重要無形民俗文化財)

心豊かな社会の実現のために

今日の社会では、経済的な豊かさが必ずしも心の豊かさをもたらすものではありません。市民一人ひとりが心豊かな生活を実現するために「文化」の果たす役割はとて大きく、日々の暮らしに潤いや喜びをもたらしてくれれます。また、「文化」は時には生きる力を与えてくれるとともに豊かな感性を育んでくれます。

市では、これら文化の力で心豊かな生活を実現させるため、本市の文化振興の目指すべき方向性などについて、市民参画のもと平成24年度に文化振興基本指針を策定し、今年度中の文化振興基本指針に向けた準備を進めています。

この条例の目的は、文化の振興に関する基本理念を定め、市の責務と市民・事

業者の役割を明らかにし、その施策を総合的に推進することで、市民一人ひとりの心豊かな生活と魅力ある地域社会の実現に寄与していくものです。

アートコーディネーターの活用

今年度より、府との共同事業として、「文化の仕掛け人」を（公財）舞鶴市文化事業団へ配置。文化の仕掛け人とは、専門的な知識・能力を発揮し、地域の資源を活かしながら、新しい地域文化の創造につながる取り組みを行う専門家です。現在、「まいづるを食べること」をアートにして楽しむワークショップを開催中。陶器の食器を作製し、市内の農家や魚屋の食材を盛りつけて絵を描く「ART（アート）でEAT（食べる）」を幼児と保護者を対象としたアートスタート事業として開催。本物の舞鶴を心とお腹で体感する事業を実施しています。



▲ワークショップ「ARTでEAT」



▲吉原の太刀振（市指定・府登録無形民俗文化財）

市民とともに歩む赤れんがのまちづくり

北吸地区に残る赤れんが倉庫群は、旧海軍舞鶴鎮守府の倉庫として明治期から大正期にかけて建造されたもので、市では、この貴重な歴史的資産を活用し、市民と行政が協働した赤れんがを活かしたまちづくりが育まれてきました。平成20年には、それらのうち8棟が国の重要文化財に指定。平成24年には舞鶴赤れんがパークとしてグランドオープンしました。

特徴的な赤れんがの空間は、プロジェクトシンポジウムや和太鼓公演、市民が主催するイベントに活用されるなど、文化創造の場として、文化芸術の発信拠点としても注目を集めています。

舞鶴から思いを未来へ

引き揚げやシベリア抑留の史実を語り継ぎ、平和の尊さを全国へ発信するための施設として昭和63年に開館した引揚記念館は、今年で26年目。戦争を知らない世代が増える中、次世代に史実を分かりやすく理解し、平和への願いを持ってもらうための新たな展示施設や貴重な資料の保存・活用環境の充実を図ることを目的として、今年9月28日に施設のリニューアルを行いました。また、平成24年から取り組んできた収蔵資料570点のユネスコ世界記憶遺産登録に係る可否が10

月上旬に決定される予定。今後、来訪者の増加で地域の活性化も期待されることです。戦後13年間にわたって引揚者をお迎えした「引き揚げのまち」の責務として、市内の子ども達へのふるさと学習の充実や修学旅行などの教育旅行を積極的に受け入れるとともに資料のデジタルアーカイブ化を推進し、世代を超えて平和や未来への願いを発信し続けていきます。

平和へのメッセージを全世界へ

舞鶴市は、第2次世界大戦後、海外に残された日本人約660万人のうち、66万人もの引揚者を受け入れました。

今年、昭和20年10月7日に舞鶴へ引き揚げ第1船「雲仙丸」が入港してから70年目を迎えます。7月には、市が全面協力して製作された舞鶴を舞台に引き揚げをテーマにした音楽劇「君よ生きて」（望月龍平シアターカンパニー）を上演し、幅広い世代に史実とともに平和への大切さを発信しました。

さらに、10月10日(土)には戦後70年・海外引揚70周年事業として平和祈念式典を総合文化会館で挙行します。市内の小・中学校、高校などから約4000人の子ども達が参加し、「戦後復興のふるさと」から子ども達の思いとともに平和へのメッセージを全世界に、そして未来へ送り届けることとしています。



にぎわう赤れんがパーク

プロジェクトシンポジウム・マッピング

音楽劇「君よ生きて」

リニューアルした引揚記念館